

あの素晴らしい土木技術をもういちど

第126回 EVENING THEATER

昭和100年と土木
第三弾

～40年代から昭和の終わりまで～

昨年2025年は、昭和元年（1926年）から数えてちょうど100年にあたる節目の年でした。

土木技術映像委員会では、土木学会が所蔵する貴重な記録映像を通じて土木がどのように国土を築き、社会を支えてきたのかを振り返る「昭和100年と土木」シリーズを立ち上げました。

本シリーズでは、昭和初期から令和に至るまでの代表的な土木プロジェクトを時代区分ごとに紹介していく予定です。

今回は、その第3弾として「昭和40年代から昭和の終わり」に焦点を当て、この期間になされたビッグプロジェクトである「東名高速道路」と「本州四国連絡橋」を記録した映像2作品を上映します。

ご興味のある方は是非ご来場ください。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。

写真（公社）香川県観光協会

東名高速道路

橋は生きている

ー見島・坂出ルート架橋技術ー

上映スケジュールは裏面またはHPでご確認下さい。劇場内での録音、撮影はご遠慮下さい。

2026年8月5日（水）18:00 開場 18:30 開演 参加無料
土木学会 講堂 （JR中央線・地下鉄丸の内線・南北線「四ツ谷」駅下車徒歩5分）

HPにて参加申込み受付

<https://committees.jsce.or.jp/avc/>

土木学会は建設系CPD協議会に加盟しています。イブニングシアターは、CPDプログラムです。

問合せ先：土木学会土木図書館 土木技術映像委員会担当 TEL 03-3355-3596

上映作品

東名高速道路

企画：日本道路公団 制作：日本映画新社 1969年 45分
第4回（1970年）国土開発映画コンクール最優秀賞



東名高速道路は、東京と名古屋を結び、さらにその先の関西圏へと至る東海道メガロポリスを貫く高規格幹線道路であり、すでに供用されていた名神高速道路と一体となることで、日本列島の中枢を縦断する一大輸送軸を形成した。

この東西を結ぶ高速交通網の完成は、人と物の流動を飛躍的に高め、物流の効率化と時間距離の短縮をもたらし、日本の高度経済成長を根底から支える重要なインフラとなった。

東名高速道路の建設は、単なる道路整備にとどまらず、わが国の土木技術の総力が結集された国家的プロジェクトでもあった。

急峻な地形や脆弱な地盤が連続するルートにおいて、長大橋やトンネル、盛土・切土工事といった多様な施工が展開され、それぞれの現場で新たな工法や施工管理技術が実践・改良されていった。

これらの技術的成果は、その後の全国的な高速道路建設に継承され、日本の道路技術の標準を形づくる礎となっていく。

橋は生きている

－児島・坂出ルート架橋技術－

企画：本州四国連絡橋公団 製作：海洋架橋調査会、山陽映画 1988年 35分
第29回科学技術映画祭内閣総理大臣賞



海によって隔てられてきた本州と四国を結ぶという長年の悲願であった本州四国連絡橋事業のうち、児島・坂出ルートは最も早く完成したルートである。

瀬戸内海の多島美の中を貫くこの壮大な連絡路は、地域間の隔たりを解消するだけでなく、我が国の交通体系に新たな時代をもたらす画期的なプロジェクトであった。とりわけ、道路と鉄道の双方を一体的に通す瀬戸大橋は、完成当時、鉄道・道路併用橋として世界最長を誇り、その規模と構造は国際的にも高い評価を受けた。

この大事業は、単に橋梁を架設するだけでなく、事前の詳細な実験や入念な予備調査から着手された。潮流が速く、地盤条件も複雑な瀬戸内海において、安全かつ確実に架橋するため、数多くの基礎実験や施工シミュレーションが積み重ねられ、その成果が設計・施工へと反映されていった。

本工事では、ミリ単位の精度が要求される鋼製柱塔の製作・据付や、大型ケーブルの架設といった高度な工程が連続し、わが国土木技術の粋が余すところなく投入されている。